

1 SDGsと森林の関わり



SDGsのうち森林に関するものについては、目標15「持続可能な森林の経営」が掲げられています。

森林は、土壌を保全し、水を育み、二酸化炭素を貯め込み気候変動を緩和することに加え、生物多様性の保全にも大きく貢献しています。

しかし、世界の森林は、農地への転用等を原因として減少・劣化を続けており、森林の保全が世界中で喫緊の課題となっています。

一方、本県を含む日本の森林は、本格的な利用期を迎えており、森林の成長量や蓄積量を踏まえた適切な伐採による持続的な利用により、SDGsに貢献していくことができる状況となっています。



2 福井の木の利用を通じたSDGsの推進

福井県の森林は県土の75%を占め、その割合は全国11位と高く、森林に囲まれた「森林県」です。

戦後、荒廃した里山に植えられた木々は、その大半が住宅などに利用できる本格的な収穫期を迎えています。森林資源の年間成長量の約3割（約23万m³：一般的な25mプール425個分）しか利用されていません。

適切に福井の木を「伐って」、「使う」ことは、上記1のSDGsへの貢献だけでなく、健全な森林の保全につながり、土砂災害を防ぎ地域に生活する安全・安心な生活に寄与します。

さらに、ふくいの木を地産地消することは、輸送時のエネルギーも少ない「省エネ」資材となります。

3 フクモクフェスの目指す姿

子どもやその保護者等が木とのふれあい、遊び、木に関する様々な体験を通じてふくいの木の魅力を感じ、知ってもらうことで、「木のある暮らし」「ふくいの木を使用した住宅」へのあこがれ、好感を刺激し、ふくいの木の利用の拡大につながることを目指します。